



校長室だより

武生第五中学校 校長室
令和6年3月12日(火)
第28号

卒業おめでとうございます!選んだ道を突き進みましょう!

今日は卒業式です。3年生のみなさんは義務教育9年間を終え、いろいろな道へ進んでいきます。そこで、「中学校3年間で一番思い出に残っていること」を聞いてみました。

O. M …一番思い出に残っていることは体育祭、文化祭です。学校生活の中で、一番大きいイベントで、3年生だけではなく1,2年生とも思い出を多く作れたからです。



K. K …2年生の時の校外学習です。友達と初めて金沢の街を歩き、自分たちで考えて行動できたからです。

K. S …生徒会活動が思い出に残っています。みんなと協力し、いろいろな事を学ぶことができました。



S. K …3年間の体育の授業が思い出です。いろいろなスポーツに挑戦できて、友達と記録を競ったり、仲間と協力して戦ったりできる機会が多く、絆が深まりました。

T. N …一番思い出に残っていることは、英語弁論です。夏休みの午後から練習があり、今までで一番大変でした。しかし、できた時の達成感はすごかったです。



N. R …最後の学校祭が一番思い出に残っています。五中生や生徒会のみんなと協力して困難を乗り越えて、最高な学校祭にできました。

N. K …修学旅行が一番思い出に残っています。クラスメイトと東京を訪れ、様々な経験を積むことができ、とても楽しかったです。



H. I …一番思い出に残っていることは修学旅行の時、船の上で食べたシュークリームがおいしかったこととディズニーランドに初めて友達と行ってアトラクションに乗ったことです。

H. T …一番の思い出は、3年生前期の生徒会メンバーで学校祭を盛り上げたことです。生徒会で話し合う時間が少なくて大変でしたが、全員で協力して盛り上げることができて、とても良かったです。最高の仲間がいて良かったし、とても感謝しています。



H. Y …一番思い出に残っているのは修学旅行です。友達と初めてディズニーランドに行けて楽しかったです。



H. R …一番思い出に残っているのは、修学旅行です。みんなで協力して県外へ行き、楽しむことができました。

Y. R …一番の思い出は修学旅行です。小学6年生の修学旅行は県外に行くことができませんでした。東京ではクラスのみなどと協力して、友情も深めることができました。

卒業生のみなさんは、小学校5年生の終わりから新型コロナウイルスの感染が広まり、楽しみにしていた小学校の修学旅行が県外に行けず、学校生活では給食が黙食になったり、調理実習や歌を歌ったりすることなどができない制限された生活を余儀なくさせられました。当時の入学式の写真を見ても、全員がマスクをつけていました。そして、昨年5月に新型コロナウイルスが第5類に移行されると、4年ぶりに東京への修学旅行や声を出して応援することができた中体連の夏季大会、地域や保護者の方が参加できて大いに盛り上がった学校祭など、いろいろな行事で楽しむことができました。感想を読んでも、楽しかったという意見が多かったです。式辞では、裏面の「あの夏を取り戻せ」大会のことを話させていただきました。これからの時代は、先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代になると言われています。しかし、みなさんにはそれを乗り越える力があります。また、辛い時や苦しい時には助けてくれる仲間や保護者・地域の方がいます。安心して自分の選んだ道を突き進んでいってください。みなさんのこれからの活躍を期待しています。1,2年生は、3年生の築いた伝統を受け継いで、五中をさらに発展させていきましょう。



【あの夏を取り戻せた🌞】

今日という日は一生忘れることはないでしょう。

僕たち高校球児にとっての夢の舞台が突然奪い去られたあの日以来、自分たちはなんて不幸な世代なんだろうと思いつけてきました。

当時のチームメイトにも、同じように目標を見失って日々を過ごしている者が大勢いました。

しかし、このままでは私たちは何年経ってもこの経験を言い訳にして前に進めない。

だったら当時のメンバーを集めて、思いきりけじめをつけようじゃないか。

「あの夏を取り戻せ」は、そういう思いから始まりました。

そして、その思いに共感してくれたかつての球児たちが、全国からこの甲子園球場に集まってくれました。

自分たちはずっと、人に支えられ、人とのつながりの中で野球をしてきたのだということを、今日強く実感しました。

改めて、みなさんに問いたいことがあります。

果たして僕たちは不幸な世代なのでしょうか。かわいそうな世代なのでしょうか。

僕は今は、そうは思いません。

“あの夏を取り戻せ。そして超えろ。”

これが、このプロジェクトの合言葉です。

いくら過去を取り戻したくても、その時には戻れません。

しかし、今日からの未来は変えることができます。

僕たちは、不透明な明日にも希望を持ち、未来を変える意思を持った世代になります。

そして、人に支えられる側から人を支える側になります。

今日という日が、「あの夏」世代が未来へ、一步踏み出す日になりますように。

2023年11月29日

あの夏を取り戻せプロジェクト発起人・代表 大武優斗